古 代 史 散 策

No. ０６７

河 内 飛 鳥 ②

源 氏 三 代

パナソニック電工松寿会
古代史散策部

平成 6年 9月作成
平成16年 6月復刻
平成29年 5月３刻

《 コ ー ス》　　６ｋｍ

近鉄上ノ太子駅 ― 穴穂部皇子御廟 ― 壷井八幡宮 ―
通宝寺跡・源氏三代墓 ― 九流谷古墳 ― 泥耕地蔵 ―
敏達天皇陵 ― 西方尼院 ― 太子前ﾊﾞｽ停　…解散

※近鉄上ノ太子駅へ徒歩釣 20 分

《 総　　説 》

【河内飛鳥】の総説については、NO62（平成 29 年 6 月作成）で述べているので、本号では省いた。

＜蘇我氏と河内飛鳥＞

この地域は、4 世紀末頃蘇我氏の祖先に当る石川宿祢の別業の地と伝えられている。

すなわち、祖先伝承によると、武内宿祢に肇った蘇我氏の、石川一溝智一韓子一高麗、と云う祖先 4 代の旧地であったとも考えられ、以後稲目一馬子一蝦夷一入鹿と続き、大化の改新で蘇我本家は滅亡するのである。

しかし馬子の子で蝦夷の弟の倉麻呂を祖とする分家の一族は、この科長（磯長）の里を本拠として続いた。

大和飛鳥の地で天下の実権を握った馬子の代に、蘇我氏系皇族の墳墓の地を、祖先の本願地に近い景勝地「科長の地」に改葬したり、新設して皇陵地帯にしたが、祖先の共同墓地と考えられる“一須賀古墳群”の北方に隣接するこの科長原の各地に、敏達（推古の夫）用明（聖徳太子の父）推古（敏達妃で、太子の叔母）聖徳太子廟（3 名合葬）孝徳の 5 陵に皇族 9 人を葬り、また河内蘇我氏族長級のものと思われる墳

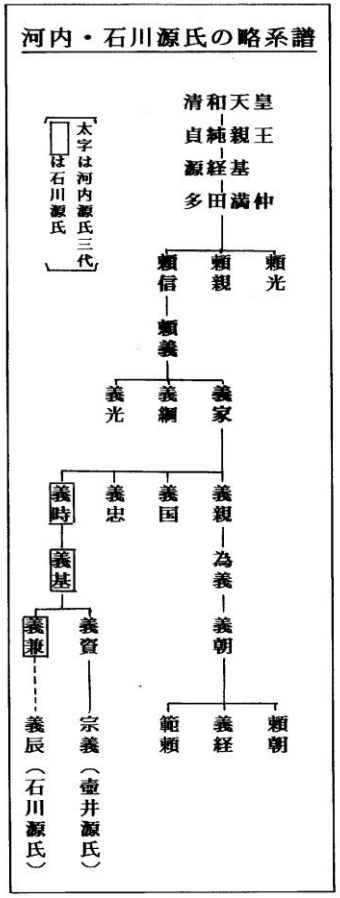
墓（仏陀寺古墳・松井塚二子塚など）も点在し、古代皇族および貴族等の文字通り“王陵の谷’と云われる霊地になったのである。

＜河内源氏＞

56 清和天皇の皇子貞純親王から出、源経基を祖とする‘清和源氏’の発祥地、摂津の多田に居を構えた摂津守源満仲（多田源氏）の四男頼信が、平安中期の寛仁 4 年（1020）「河内国司（河内守）」に任ぜられ、この壷井の地を本拠地として邸宅を造営して河内庶民の基礎を築いたのがはじまりである。

頼信はこの高台を「香炉峰」と名付け、それ以後頼義一義家一義時等の子孫が居住していた。ここで云う「源氏三代」とは、頼信・頼義・義家を指し、数々の武功により大きな勢力となり、義家以後は中央政府の高官となって都に居住して源氏の本流と云われるようになった。

彼の五男義時は父祖の地に残留して「石川源氏」の棟梁と



ての地位を確保し子孫は南北朝の頃もこの地で活動し続けた。

《 各　説 》

【穴穂部皇子中御廟】　太子町飛鳥

皇子は 29 欽明天皇の皇子で母は蘇我小姉君。31 用明天皇崩御のとき皇位を争い、蘇我馬子に殺された。

なぜ御廟がここにあるのかわからない。

【壷井八幡宮】　羽曳野市壷井町

渡瀬義・義家父子が前九年の役の平定後、源氏の守護神として康平 7 年（1064）石清水八幡宮の神霊を勧請してこの地に創建したのがはじまりである。

境内横にある“壷井権現社’は、天仁 2 年（1109）義時が河内源氏の氏神として創建したもので、頼信・頼義・義家と義光の四柱が祭神となって祀られている。

これらの社殿は元禄 14 年（1701）に 5 代将軍綱吉が、柳沢吉保に命じて再建させたものであるが、老朽化し修復中である。境内の一角には源氏手植えの樹齢千年と云われる楠（府天然）、石段下には清泉「壷井」がある。

【通宝寺跡・源氏三代墓】　羽曳野市通宝寺町

石丸山と号し、11 世紀中葉、河内国司の源頼信等が、菩提寺として開基したと伝えられているが、明治初年に廃寺となり、現在はわずかに山門と梵鐘のない鐘楼および新本堂の礎石が残っているのみである。

しかし中世寺院跡として国の史跡指定を受けている。
前九年の役後、頼義は出家して浄土宗に帰依し、死去後、旧本堂の床下に葬られ、いわゆる‘墓堂形式”の墳墓として現存している。
なお新本堂跡より南へ１町の丘陵上に、八幡太廊義家の墓、少し離れて頼信の墓（墓石なし）があり、いずれも国の史跡になっている。

【　九流谷古墳　】　　太子町太子

４世紀後半から５世紀にかけての築造とされている、２段造の前方後方墳で、大阪府では柏原の安堂山古墳とともに、わずか２基しかない珍しい形式である。
埋葬者は不明。現在ブドウ畑に囲まれ近づけない。

【泥掛地蔵】　　太子町太子

高サ１.8mの礫岩製の地蔵菩薩で、平安中期の作と云われている。この地蔵は、腫物に霊験あらかたとして、祈願して治癒した場合、お礼参りの時に泥をお顔に塗ったことから、この名称が生じたと云われている。

【30 敏達天皇　中尾山陵】　　太子町太子

北々西を向く２段造で周りに狭い空堀をめぐらす、太子町磯長地方唯一、わが国では最後の前方後円墳の皇陵で、「諸陵式」には敏達天皇と生母石姫皇后の合葬陵とある。
規模は前方部幅 67m、後円部径 58m、全長 113 m。

【西方尼院】　　太子町太子

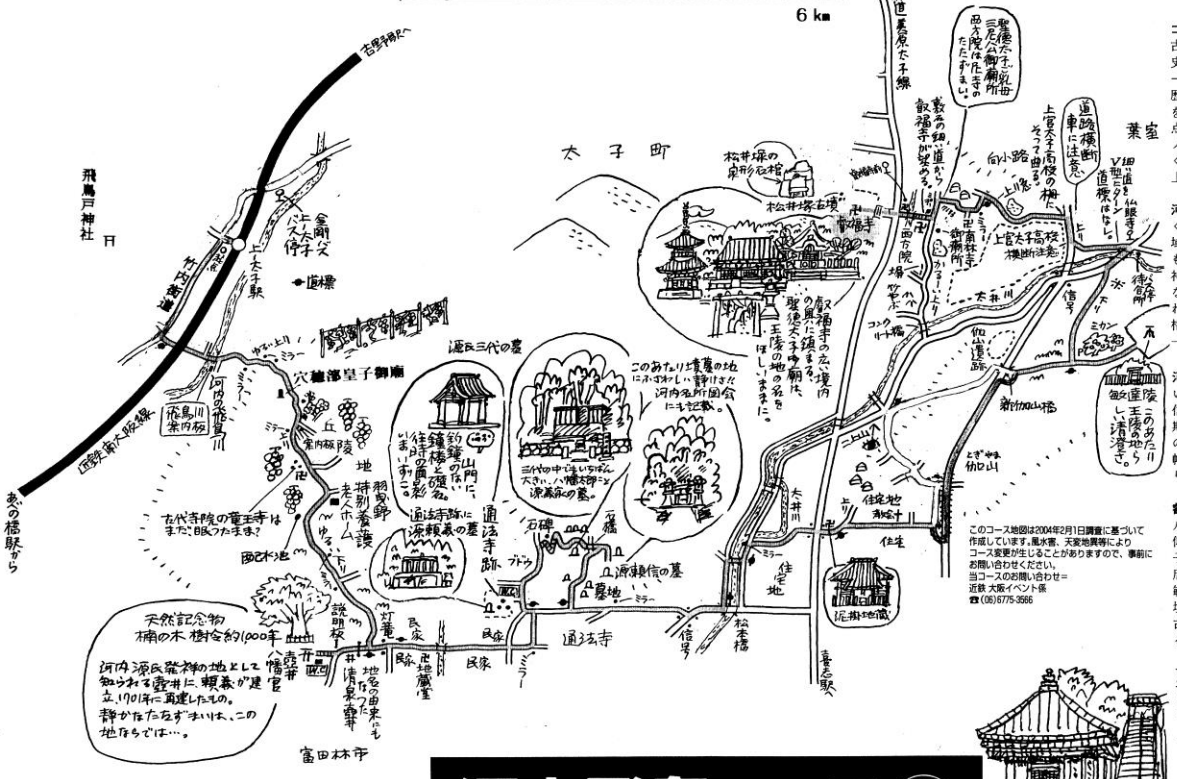
聖徳太子が死去された直後、推古女帝の勅命で、太子の乳母等３人（蘇我馬子の娘・物部守屋の娘・小野妹子の妹）が出家して尼僧となり、太子廟の南方台地上に西方尼院を創建し、太子の菩提を弔ったと云われる。
寺の南側に三尼公の多層塔（凝灰岩製）が残されている。住職の姓は蘇我である。

作成　　末岐　敏一
解説・案内　坪内邦彦、中瀬士節

上の太子駅 ― 穴穂部皇子御廟 ― 壺井八幡宮
― 通宝寺跡・源氏三代墓 ― 泥掛地蔵
― 敏達天皇陵 ― 西方尼院 ― 太子前

6km

●コース内の神社仏閣、施設等には、有料の個所があります。



河内飛鳥コース②

てくてくまっぷ 41

コースのあらまし　渡来人が活躍した古代、聖徳太子の飛鳥時代、源氏が歴史の舞台に顔をのぞかせた平安時代、――このコースは三つの時代を訪ねる歴史散歩の道。前半はゆるやかな坂道を上っては下りる、後半は田園地帯に点在する史跡をめぐり、叡福寺から上ノ太子駅までは、古い家並の軒先を歩く。「河内ふるさとのみち」の道標と二上・葛城・金剛連山が道しるべとなる。

河内飛鳥　飛鳥戸神社とその周辺が広く「河内飛鳥」「近つ飛鳥」とよばれる地域の中心である。神社は小さいながらも由緒は古く、百済の昆支王を祀る。神社をとりまくように広がるゆるやかな丘陵地帯は飛鳥千塚(約50基)とよばれる古墳群で、観音塚古墳はその代表格。渡来人が活躍したこの地も、今は一面のブドウ畑となっている。

河内源氏の里　のちに鎌倉幕府をひらいた清和源氏が拠点としたところ。頼信・頼義・義家の三代は、平安時代末期に活躍した武将で、源氏の東国進出の礎となった。このあたりには壺井八幡宮・通法寺跡・三代の墓など、ゆかりの史跡が多い。

叡福寺　羽曳野の野中寺(中ノ太子)、八尾の勝軍寺(下ノ太子)と並ぶ太子信仰のメッカ、上ノ太子とよばれる。太子廟には聖徳太子・太子の母・太子の后が眠り、三骨一廟という。太子廟と敏達陵(太子西山古墳)・用明陵(向山古墳)・推古陵(高松古墳)・孝徳陵(上ノ山古墳)を、その並び方が梅の花に似ていることから梅鉢御陵とよぶ。

このコース地図は2004年2月1日調査に基づいて作成しています。風水害、天変地異等によりコース変更が生じることがありますので、事前にお問い合わせください。
当コースのお問い合わせ＝
近鉄 大阪イベント係
☎(06)6775-3566

ハイキングのエチケット

* ゴミはまとめて持ち帰りましょう。
* 山火事防止のためタバコに注意しましょう。
* 大切な自然です。植物の採集はつつしみましょう。

きれいな思い出 きれいな自然
ゴミやアキ缶は、持ちかえりましょう

企画・発行＝近畿日本鉄道㈱
制作・印刷＝㈱メディアート
イラストマップ＝ート シ・アトリエ　瀧川俊朗
※無断転写禁ず。

近鉄